

5章1節 各実践

5章1節1 「簡易版授業デザインシート」の読み方、使い方

ここでは、研究会で用いた「授業デザインシート」の読み方、使い方を説明します。具体的な使用例は後に続く各実践をご覧ください。この説明は、柞磨（2020：126-144）[1]を参考にしています。

科目[] 授業者：	学期期末			年生	クラス
本質的な問い	「何のために学ぶのか」という問いの核になるもの。				
達成目標	① ② ③	下記「問いの構造化」や「生徒の変容」と関連した目標の記述。			
論点 (深めるために)	複数の観点を組み合わせて論じる必要のある論点を記述する。				
実践の振り返り	① ② ③	上記「達成目標」との関連の中で、教師や生徒の振り返りを記述する。			
問いの構造化					
	Ideas	Connections	Extensions		
導入展開の問い	②○○○○○… ③○○○○○…	①○○○○○…			
洞察を促す問い	授業で扱う問いを書き込んでいきます。問いの質と授業の展開に応じて問いを書く場所を変えます。「洞察を促す問い」は学びを深めるための議論を要するような問いです。扱う問いの順番を数字で示します。Eの問いから順番に考えて行くと、学びの流れを意識することができます。				
本質的な問い					
生徒の変容 (ICE ルーブリック)					
	Ideas	Connections	Extensions		
教科・科目に特有の知識・技能	生徒の変容を記述します。横が学びの質、縦が観点となります。観点ごとに記述したICEルーブリックに相当します。「問いの構造化」や「扱う内容」、「達成目標」と関連します。				
教科・科目に特有の見方・考え方					
汎用的な能力					

1 柞磨昭孝（2020）「生徒も教師も楽しめる問いづくりの実践 学びが変わる問いのフレームワーク」日本橋出版